

文化財防火デー（1月26日）

円鏡寺 楼門で消火訓練！
1月26日は「文化財防火デー」



昭和24年1月26日、日本最古の壁画が描かれた奈良県法隆寺金堂が焼損しました。

その後も文化財の焼損が相次いだことから、消防庁と文化庁は昭和30年に1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を展開しています。

北方町でも文化財保護協会が中心となり、毎年 消火訓練を行っています。

消火訓練では、後世に残したい北方町の宝である“円鏡寺 楼門（国指定 重要文化財）”付近で火災が発生した場合を想定し、消防署への通報訓練、放水による消火訓練などを行います。

ぜひ、みなさまも見学にお越しください。

【日 時】1月26日（木）午前10時～

【場 所】円鏡寺 楼門 付近

円鏡寺 楼門（国指定・重要文化財）

鎌倉後期

池鏡山 円鏡寺は空海（弘法大師）創建とされ、多くの文化財を有する真言宗別格本山です。

楼門は上梁銘によると92代伏見天皇の永仁4年（1296年）永尊が建立したもので、典型的な鎌倉期のものとなります。この門の特徴は、勾配の緩やかな屋根と腰の均整がきわめて優美にできていることで、明治神宮南楼門の建造に際してそのモデルともなりました。

楼門 下層中央の間は両開きの板扉、左右の脇の間には、楼門と同じく鎌倉期の力溢れる仁王像が安置してあります。

